

# ぶらりわが街宮沢界隈

## (33) 花・樹木をながめてぶらり散歩 (初秋～秋) - II -

### ○ ハギ(萩) 一秋の七草の一つで秋を代表する花 マメ科の落葉低木



阿弥陀寺(宮沢町2-36-6)境内等  
ハギは、古くから庭木に利用されている。莖(くき)は基部のみ木化し、上部は草状であるため、地面に垂れ下がる樹形になる。

初秋から莖の上部の葉(三出複葉)のわきから葉よりも長い花柄を出し、総状花序をなして花が咲く。品種は、紅紫色ヤマハギ(秋の七草)、ミヤギノハギ、白色シロバナハギ、紫紅色キハギなどがある。ハギは古くから日本人に親しまれ「万葉集」で最もよく詠まれる花であり、牡鹿とペアが多い。花札7月10点札はハギ

と猪の絵柄がある。

\*主なハギ 仙台市太白区の仙台市野草園-ミヤギノハギ(宮城県花)「ハギの道」大トンネル、京都市左京区の常林寺(じょうりんじ)-通称「ハギの寺」境内800株の美観。

### ○ カリン-別名・安蘭樹(アンランジュ)、中国名・木梨(もっか)-バラ科落葉広葉高木



市役所通りの街路樹-市役所で毎年11月初旬カリン(果実)の無料配布。カリンは、中国東部原産で、古くに薬用植物として日本に渡来した。4~5月頃に可憐なピンクの5弁花が開花。秋に楕円形の大きな果実が黄色く熟し、芳香(ほうこう)が出てきたら収穫する。生食はできないが、果実酒や砂糖漬けに加工、古くから民間療法で果実に含まれる成分が喉(のど)の炎症に効くとされ、咳(せき)止め、利尿に利用、のど飴に配合されている。

\*主なカリン 長野県諏訪市・箕輪(みのわ)町、香川県まんのう町・カリンの里

### ○ イチョウ(銀杏・公孫樹・鴨脚樹)-イチョウ科イチョウ属・中国原産・落葉高木・雌雄異株



#### ① 熊野神社(中神町1-12-7)の大公孫樹(おおいちよう)(写真左)

一公とは祖父の敬称で、祖父が種子をまいても実が成るのは孫の代になってからと言われている。旧中神村の鎮守、熊野神社の神木で、幹周り約4.5m、樹高約45.5m、推定樹齢400年といわれ、多摩地区では稀に見る雌株大樹で、銀杏(ぎんなん)は約三石(540リットル)も採れます。一市指定天然記念物。

#### ② モリタウンのいちよう並木(写真右)

-モリタウン~フォレストイン昭和館間の全長414m、幅員14m、72本のいちよう並木は歩行者専用道として国内屈指で、新緑・黄葉時は美しいです。

イチョウは、葉は扇形、樹木としては長寿で樹高20~30m、幹周10mを越える巨木も見られる。落葉前

は鮮やかな黄色に黄葉し、黄葉時の美しさと、剪定(せんてい)に強いという特性から、街路樹として利用されており、樹種別では最多57万本(2007年調査)植えられている。

雌木は秋期に落下した果実「銀杏」は熟すると肉質化した外皮が異臭を放つ(ニホンザル、ねずみなどは食べない)、異臭の主成分は酪酸(らくさん)とヘプタン酸である。銀杏は殻を割って中の仁(じん)が調理される。デンプンが豊富に含まれモチモチした食感と独特の歯ごたえがあり、茶碗蒸しの具、酒の肴として人気がある。都道府県の木-東京都、神奈川県、大阪府。

\*主なイチョウ 東京都明治神宮外苑並木、八王子市甲州街道770本、大阪府御堂筋並木。



(文・写真)防犯宮沢支部 西山 禎一